

舞踏聖歌

灯が消える 灯が点る 雲に風さへ加はつて
時折不気味な 音を立て

玻璃扉へ咲くのは 雪の華

死報の鐘が 病棟の 周囲をめぐつて 木霊する

今人々は踊つてる 言葉もなく 聲もなく
無言の裡に踊つてる

形而上の踊りです さう形而上の踊りです

どうやら吹雪になりました

たいそう寒気が滲みますな

地球が冷えて行くのでせう

さあどうぞおあたりなさい

お湯の滾りも心よい

何かのどかな晩ですね

天国地国が一つになつた

何故かそんな気がします

二列に並んだ ^{ベット}寝床では 病んだ金魚のそれほどに

微かな呼吸が生れてる

吊つた布団や 松葉杖 物云ひたげな 表情です

仄明りうすら漂ふ その真ん中の 寝床では

口紅ほどの 血を吐いて

死んだ少女が 眠つてる

その枕元で 友の手が 可愛い鬘を ^あ結んでゐる

結んでゐる 鬘を眺めて 人々は 心密かに感じてゐる
同じいやうに或るものを

それは等しく 無言の裡に 感じ合つてるものでした

今人々は踊つてゐる 言葉もなく 聲もなく
無言の裡に踊つてゐる
形而上の踊りです さう形而上の踊りです

世界の普遍の

生命いのちの中の

和解の出来ぬ 二つのちから

その合一ぢやないですか……

灯が消える 灯が点る 吹雪吹ぶいて 夜が更ける
死報の鐘がはるばると
村々めぐつて 鳴つてゐる 歌つてゐる 鳴つてゐる

(昭和十二年「山桜」五月号)